



No. 217

2025. 7

愛教研 社会科委員会

【研究主題】

社会の在り方や自らの生き方を追求する子どもの育成
～社会的な見方・考え方を働かせ、「問い」を紡ぐ社会科学習を通して～〈第1年次〉

愛教研社会科委員会委員長 橋本 英樹

令和7年度が始まりました。今年度より、本県社会科の研究主題を「社会の在り方や自らの生き方を追求する子どもの育成～社会的な見方・考え方を働かせ、『問い』を紡ぐ社会科学習を通して～」と変更して研究を進めて参ります。

OECDのPISA調査などで我が国の15歳は世界トップクラスの成績を収め、レジリエンスが高い教育という評価を受けています。一方、同じPISA調査で、自律的に学びを進める自信がない子どもの割合が世界トップクラスに多いという結果も報告されています。その中では、学習指導要領にある教科固有の見方や考え方が身に付くように指導するという点、主権者教育が充実してきたため改善傾向は見られるものの、他国と比べると政治や社会に対する当事者意識は低い状況であるという点などが、課題として挙げられています。社会科委員会では、新しい研究主題のもと、これらの課題についても真摯に取り組んで参りたいと思います。

今年度の第63回愛教研社会科夏期研究大会は8月4日、松前町（伊予支部）を会場に開催されます。本会が県内の社会科仲間の交流の場となるとともに、未来を切り拓く子どもたちの授業改善の一助になればと思います。多数の先生方にご参加いただきますようお願いいたします。

【研究速報・機関誌のお知らせ】

- ◎ 社会科研究速報「しゃかいか研究」随時発行予定（社会科委員会HPに掲載します）研究会の情報、最新の理論や実践事例について紹介します。
- ◎ 社会科研究機関誌「社会科教育」年1回発行（90号 令和8年2月発行予定）

【第63回 社会科夏期研究会のお知らせ】

- 期 日 令和7年8月4日（月）
- 会 場 松前総合文化センター
- 内 容 全体会、本部提案、分科会、講演など
- ★ 文部科学省教科調査官の小倉先生も来県予定です。ぜひ一緒に社会科を学びましょう！日程等の詳細は、研究会の案内にてお知らせいたします。

【研究大会のお知らせ】

- 第63回 全国小学校社会科研究協議会研究大会 群馬大会
【大会主題】 「よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習」
～思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実～
【期 日】 令和7年11月13日（木）・11月14日（金）
【場 所】 群馬会館 前橋市立桃井小学校 他
- 第58回 全国中学校社会科教育研究大会 大阪大会
【大会主題】 「一人ひとりの未来につながる社会科の創造 ～問い・探究、そして参画へ～」
【期 日】 令和7年11月13日（木）・14日（金）
【場 所】 興國高等学校 サンスクエア堺 他

各種問い合わせ

愛教研社会科委員会 事務局 豊田 高広（愛媛大学教育学部附属小学校 教諭）

〒790-0855 愛媛県松山市持田町1丁目5番22号

TEL 089-913-7861

【研究主題】

社会の在り方や自らの生き方を追求する子どもの育成

～社会的な見方・考え方を働かせ、「問い」を紡ぐ社会科学学習を通して～

〈第1年次〉

1 研究のねらい

現在、気候変動や食糧難などの社会活動に多大な影響を及ぼす問題が、世界規模で深刻化している。グローバル化が進み、それらの問題は複雑に絡み合い、ますます先行き不透明な時代が到来する。そのような予測困難な社会を生きる子どもたちには、「生きて働く力」「未知の状況に対応する力」「学んだことを人生や社会に生かす力」といった資質・能力の育成が欠かせない。社会科学学習には、そのような中で、多様な解釈・多彩な解のある社会的事象との出会いを通して、子どもが社会の在り方やその中でどう生きるかを追求する態度を養っていく上で大きな役割がある。

また、これまで大切にしてきた社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察（確かな社会認識を得ること）したり、構想（社会認識を土台として未来の社会や自分を描くこと）したりする社会科学学習においては、子どもの主体性が発揮される学びの充実がより一層求められる。そこで鍵となるのは、社会的な見方・考え方を働かせる「問い」の創出である。「問い」は、自分ごととして追求活動を行う出発点であると同時に、社会的事象のより深い考察や構想へ導くものだからである。子ども自身が見いだした「問い」に基づく問題解決的な学習を充実させることで、明確な答えがない課題に対しても、よりよい解決の在り方を他者と協働して問い続け、たくましく未来社会を生き抜こうとする意思を持った子どもの育成を目指したい。

これまで本県が積み上げてきた研究・実践の成果を生かし、子どもが社会的な見方・考え方を働かせ、「問い」を紡ぎながら学び続けることができるような単元の構想について研究を深めていく。子どもが様々な社会的事象に対して切実な「問い」を持ち、他者と「問い」を共有しながら課題を粘り強く追求し、思考を広げ深めていくことができるような学びの先に、期待される資質・能力を身に付けた子どもが育成されると考え、本研究主題を設定した。

〈本研究における「問い」と「問い」を紡ぐ社会科学学習について〉

「問い」とは

子どもに投げ掛ける問い（発問や振り返りの視点）や子どもが心に抱く問い（疑問や予想、意思）、そして子どもと共につくる問い（学習問題）。

「問い」を紡ぐ社会科学学習とは

社会的事象との出会いを通して様々な「問い」が生まれ、その「問い」を他者と共有して互いの認識のずれに気付き、大きな「問い」（学習問題）につなげる。そして、追求の過程で多様な他者の意見を基に新たな「問い」を見だし、その「問い」をさらに追求する。このように「問い」を紡ぎながら自らの思考を広げたり深めたりする学習。

2 研究の視点

(1) 教材開発・単元構成の工夫

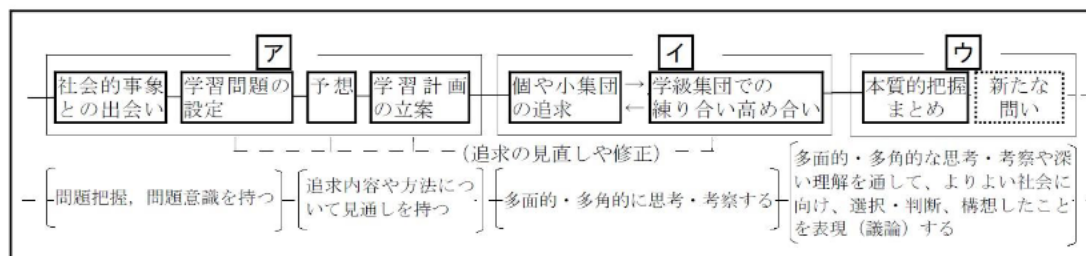
- 教材（学習指導要領に示されている内容と子どもを結び付けるための材料）を客観的側面（数値等のデータや地図、年表等）・実感的側面（写真や見学、模擬体験等）・共感的側面（ゲストティーチャー〈以下GT〉との関わり等）から見直し、切実な「問い」や多様な「問い」が生まれる教材かどうか吟味・検討する。
- 子どもが社会的事象を身近に感じ、社会の在り方や自らの生き方を追求することができるように、次のような視点を踏まえて教材開発を行う。
 - ・工夫や努力、協力など人間の知恵から学ぶことができる人の姿や地域素材の教材化
 - ・情報化や環境悪化、防災・安全など、社会の変化に伴って提起される今日的課題や簡単には答えが出ないような問題の教材化

- 子どもの問題意識のつながりや他教科との関連、小・中の系統性を踏まえて単元を構成する。その際、子どもが問題解決への見通しを持ち、社会的な見方・考え方を働かせながら、社会の在り方や自らの生き方を追求することができるよう、「問い」に焦点を当てて問題解決的な学習過程を構成する。

(2) 学習指導方法の工夫・改善

- 社会の在り方や自らの生き方を追求しようとする資質・能力は、子どもが「問い」を持ち、主体性を発揮しながら調べたり考えたりして適切に表現する問題解決的な学習過程において育成される。そこで、下のように単元を構成して学習を展開する。

〈問題解決的な学習過程〉



その際、それぞれの場面の持つ意義を考え、子どもが社会的な見方・考え方を働かせ、「問い」を紡いで思考を広げ深めていくことができるよう、教師のコーディネートに重点を当てて学習指導方法を工夫・改善する。

- **ア**の場面では、問題意識を大切にして、社会的な事象との出会わせ方を工夫し、単元のねらいに迫ることができる価値ある学習問題を設定する。また、子どもの予想を基に学習計画を立て、個や小集団での追求内容や方法の見通しを持たせる。
- **イ**の場面では、「学習問題の解決に向かっているか」という視点から、追求の内容や方法を見直し、協働的に追求させる。また、「問い」を工夫することで、子どもが追求の成果を根拠にして考えを練り合い高め合う話合いの質を高め、学習問題について多面的・多角的に思考・考察させる。
- **ウ**の場面では、予想したことや多面的・多角的に思考・考察して理解したことを想起させ、社会的な事象について本質的把握をさせる。また、社会に見られる課題を把握し、その解決に向かう社会の在り方や自分たちの関わり方を選択・判断し、構想したことを表現（議論）することで、さらに社会について理解を深めたり、社会への関心を高めたりさせる。

(3) 評価の工夫

- 評価場面を精選し、単元の目標や学習のねらいに即した具体的な評価規準を作成し、効果的・効率的な評価を行う。
- 社会科日記やワークシートの内容、活用の仕方を工夫し、子ども自身の学び方や社会的な事象に対する思考の広がりや深まりを見取って評価に生かすことで、学び続ける子どもを育成する。

3 留意事項

- 社会的な事象の意味や意義を解釈する、社会的な事象の特色や事象相互の関連を説明する、持続可能な社会の形成等の視点から自分の考えを表現（議論）するなど、言語活動を充実させる。
- 問題解決的な学習過程のそれぞれの場面で ICT 端末や思考ツールを効果的に活用し、情報を収集し、読み取り、まとめる活動やその成果を友達と共有する活動、学びを振り返る活動などを充実させる。
- 「教師と共に教材開発を行う」「子どもに『問い』を持たせる」「子どもと共に追求する」「子どもの追求を価値づける」「子どもを実社会とつなげる」等、GT を効果的に活用する。

新研究主題について

社会の在り方や自らの生き方を追求する子どもの育成
～社会的な見方・考え方を働かせ、「問い」を紡ぐ社会科学習を通して～

【目指す子どもの姿】（「学びに向かう力、人間性等」との関連）

- 社会的事象に対して「問い」を持って追求し、多面的・多角的に考察したり、社会の発展を願いながら社会に見られる課題の解決策を構想したりしようとする姿 **【問題解決への態度】**
- 社会科学習の中で、地域・日本・世界の人々と共に生きる社会や持続可能な社会を描きながら、現在から将来にかけて社会の一員としての生き方を考えようとする姿 **【誇りと愛情、自覚】**

ウ 構想に向かう段階

新たな学習問題につながる疑問

＊愛媛県が提案する問題解決的な学習過程の第2ステージ

「問い」を紡ぎながら、社会的事象に対する思考を広げ、深めてゆく学び

社会の在り方や
自らの生き方

持続可能な社会

共生

よりよい社会の形成に関わろうとする意思

子どもを実社会につなげるための発問

イ 考察に向かう段階

追求の中で生まれる新たな疑問や予想、意思

社会的事象について
調べるための発問

個や小集団の追求

本質的把握

本質的把握に導く発問

＊の第2ステージは、子どもの思考の流れを大切にし、社会的事象に対する視野を広げて自分の考えをまとめるという目的を明確にして位置付けましょう。どの单元でも必ず設定するというわけではありません。

ア 見通しを持たせる段階

学習問題につながる疑問

学習計画の立案

学習問題の設定

予想

学習問題に対する予想

社会的事象との出会い

社会的事象と
出会うための発問

追求

【「問い」を紡ぐ社会科学習で特に大切にしたいこと】

- ① 「問い」に焦点を当てた問題解決的な学習過程の構成（研究の視点1より）
教材と教師の発問と子どもの問い（疑問・予想・意思）がにつながる单元づくり
- ② 本質的把握に向かうための教師のコーディネート（研究の視点2より）
子どもが社会的事象に対する思考を広げ、深めていくことができるよう、教師の発問や資料提示の仕方、学習活動の工夫などの学習指導方法の充実
- ③ 指導に生かす評価（研究の視点3より）
子どもの学び方や問い（疑問・予想・意思）を見取り、子どもの社会的事象に対する追求意欲を高めたり、思考を広げ深めたりさせるフィードバックの在り方

各分野・各領域の单元を学習する際に、目指す子どもの姿を設定しましょう。

愛媛の社会科Q & A

今年度から、新しい研究主題を掲げました。そこで、愛媛の社会科が大切にしていきたいことを、現研究主題をもとに明らかにしていきたいと思います。
今回は、下の疑問について、考えてみたいと思います。



Q 「『問い』を紡ぐとは、どういうことですか？」

A: その前に、「問い」をどのように捉えるか確認します。学習指導要領解説（小学校社会科編）には、「問い」について、以下のような記述があります。

「問い」とは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習の問題（「学習問題」）はもとより、児童の疑問や教師の発問などを幅広く含むもの



そこで現研究主題では、教師の発問や振り返りの際の視点、子どもが心に抱く疑問や予想、意思、そして学習問題のような子どもと共につくる問いの全てを「問い」とします。

主題に掲げた「社会の在り方や自らの生き方を追求する」という表現は、一見未来志向を思わせますが、その前提として、自分と社会的事象や社会生活をつなげて今の社会を読み解く、確かな社会認識が必要です。そして、社会を読み解くためには、読み解くための「問い」が欠かせません。

社会的事象と出会った子どもが、「なぜ?」「どのようになっているの?」「〇〇さんどう思う?」「～を調べてみよう。」「〇〇さんはどう考えているのかな?」「△△とどう関係しているの?」「本当にこれでいいのかな?」「これからどうするべきなのかな?」「私たちにもできることがあるよ。」などと、様々な「問い」を持ち、他者と共有し、新たな「問い」を見だし、考え続けて「問い」を深化させていく（＝「問い」を紡ぐ）社会科学学習を通して、子どもが社会的事象に対する思考を広げ深めていく姿を目指しています。

そのためには、子どもにとって切実な「問い」・多様な「問い」が生まれる教材の開発や、子どもが社会的な見方・考え方を働かせるような発問、資料提示や対話的な学習活動の工夫といった教師の適切なコーディネートと、子どもの「問い」を丁寧に見取り、指導に生かす評価の工夫が大切になると考えます。そして、今一度、子どもの意識の流れを大切にしたい問題解決的な学習の充実を図りたいと思います。

以上のことを念頭に置き、研究の視点（「教材開発・単元構成の工夫」「学習指導方法の工夫・改善」「評価の工夫」）に沿って、実践を重ねていきたいと考えています。子どもたちのために、ともに、研究を深めていきましょう。



☆ 各種問い合わせ

〒790-0855 松山市持田町Ⅰ丁目5番22号 TEL:089-913-7861 FAX:089-913-7862

愛教研社会科委員会 事務局 豊田 高広（愛媛大学附属小学校）